

3 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(四枚のうち一)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

□ 一 あとの問一～問八に答えなさい。

問一 次のア～ウの読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

ア 剪装本 イ 印褌 ウ 簡牘

問二 次のア～ウは書道に関連のある語です。それぞれ簡潔に説明しなさい。

ア 双鉤法 イ 倣書 ウ 印矩

問三 次のア～ウは書道に関連のある語の説明です。それぞれ何について述べたものか書きなさい。

ア 筆を持った方の腕(ひじから先)を軽く机上に触れる程度につけて書く方法。
イ 石や木、金属などに刻された文字や絵画の刻面に紙を押し当て、墨を含ませたタンポを使って写し採ったもの。
ウ 植物性油脂を燃やして得られる煙煤を原料として作られる墨。

問四 次のア～エの文章中の a e にあてはまる語をそれぞれ書きなさい。

ア 秦の始皇帝は、天下統一(前二二一)後、各地を巡遊し、石に記念の文字を刻ませました。その一つが丞相李斯の書と伝えられる a です。堂々として均整のとれた文字で、このような様式の篆書を b と呼んでいます。
イ 書譜は、唐時代の c が、六朝時代の書論を基盤としながら王羲之を典型に据え、書の本質や価値、学書に対する考えなどを美しい文体で論じたものの草稿です。
ウ 石尊は、西周時代初期に酒器として使用されたとみられる青銅器です。内側には、召という人物が神事に用いる白馬を炎の地で賜った栄誉をたたえる文章が鑄込まれており、このような銘文を d といいます。
エ 漢字には、四つの造字法(象形・指事・会意・形声)と二つの運用法(転注・仮借)があり、これを併せて e といいます。

問五 次の図版は「季嶠詩雜詠」の一部です。あとのア・イに答えなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

3 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(四枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

ア この書は誰の書法の影響を受けたものか書きなさい。

イ 次のa～eは、図版の中の文字です。それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

問六 次の文章は、仮名の成立について述べたものです。あとの図版①～④を参考に、文章中の「ア」「イ」「オ」にあてはまる語をそれぞれ書きなさい。

中国から漢字が伝わると、漢字の「ア」を借りた日本語の表記が工夫された。これが仮名の起りである。漢字一字に一音を当てて表記するこの文字は、漢字が真名と呼ばれたのに対し、仮の字という意味から仮名と呼ばれた。おもに万葉集で使用されたことから、後に「イ」とも呼ばれた。書体としては、初めは図版①や②のように漢字の楷書や行書で書かれたことから、真仮名・「ウ」ともいう。平安時代に入ると、次第に図版③のような草書で書かれるようになった。草・「エ」ともいう。更に簡略化が進み、平安時代中期になると図版④のような「オ」と呼ばれる仮名が生まれた。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

3 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(四枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答题紙に記入すること。)

問七 次の図版①～③について、あとのア～エに答えなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ア 図版①は、三色紙の一つ「弁色紙」です。三色紙といわれるあと二つの書跡名をそれぞれ書きなさい。
- イ 図版①の書風の特徴を簡潔に書きなさい。
- ウ 図版②は、図版①の一部を拡大したものです。書かれている字はどう読みますか。その読みを平仮名で書きなさい。
- エ 図版③は、図版①の一部を拡大したものです。それぞれの仮名について、その字源をそれぞれ楷書で書きなさい。

問八 次のア・イに答えなさい。

ア 次の文は、北宋の黄庭堅の『論書』の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。

草書妙處、須學者自得。

イ 次の文は、北宋の蘇軾の『東坡題跋』の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。

硯之發墨者必費筆、不費筆則退墨。

3 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(四枚のうち四)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

二 「書道Ⅱ」において、書跡に基づいた表現で「漢字仮名交じりの書」の創作を行うこととします。次の問一～問三に答えなさい。

問一 北魏時代の造像記に基づいた創作を行うこととします。平仮名や片仮名を造像記と調和する書き方で書く際に、どのような点に留意して書く必要がありますか。簡潔に三つ書きなさい。

問二 「夢」をテーマに十文字程度の題材(言葉)を設定し、創作を行います。「夢」というテーマに沿って考えた「題材(言葉)」及び「表現したいイメージ」「基にする書跡名」「書跡を選んだ理由」をそれぞれ書きなさい。ただし、選ぶ書跡は造像記以外とします。

問三 生徒が作品制作をする際に、好きな詩や和歌、俳句などを題材として選んできたとします。著作権などの知的財産権の観点から生徒にどのような内容を指導する必要がありますか。書きなさい。

三 「書道Ⅰ」において、表現及び鑑賞を通して行書の用筆・運筆の技法を習得させ、卒意の書ならではの多様な書きぶりの理解を深めることを目標に設定した授業を行うこととします。目標を達成するために、次の図版を用いて鑑賞、臨書を学習させたのち、この題材を使って半切二分の一の大きさの作品作りをさせる学習指導を行うこととします。学習活動のまとめりに第一次から第四次までの全八時間で指導する場合、どのような学習活動及び指導上の留意事項を設定しますか。学習活動のまとめりに、第一次から第四次までのそれぞれの配当時間、学習活動及び指導上の留意事項を簡潔に書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

四 平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道Ⅰ 「共通事項」に「(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」とあります。事項の「A用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。」「B鑑賞」を指導する際には、どのような工夫が必要か書きなさい。

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち一)

受験番号
氏名

一										問題番号	
問五		問四				問三	問二				問一
イ	ア	エ	ウ	イ	ア	ア	ウ	イ	ア	ア	
a		e	d	c	a						
b						イ				イ	
c											
d					b						
e						ウ				ウ	

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち二)

受験番号	
氏名	

問題番号								解答欄
問八		問七				問六		
イ	ア	エ	ウ	イ	ア	エ	ア	
						オ	イ	
							ウ	

3

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち三)

受験番号

氏名

問題番号

解答欄

二					問一			問題番号
問二		問二			問一			問題番号
		書跡を選んだ理由	基にする書跡名	表現したいイメージ	題材(言葉)			
問三								

3

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち四)

受験番号
氏名

問題番号			
次	配当時間	学習活動	指導上の留意事項
一			
二			
三			
四			

解答欄

3

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち五)

受験番号

氏名

問題番号	四
解答欄	